

## 第39回全国サケ・マス・魚卵大手荷受・荷主取引懇談会開催概要

- ・日 時 平成29年8月2日(水) 15:00~18:30
- ・場 所 ロイトン札幌 3階 「ロイトンホール」
- ・出席者 来賓: 9名 荷受: 58社 103名 商社等: 21社 36名  
仲卸: 6社 12名 生産者: 14組合 20名  
関係団体等: 3団体 4名 荷主: 73社 106名 報道機関

### I 開 会

### II 主催者挨拶 代表理事長 宮崎 征伯

- ・ イクラ、カズノコ等の魚卵は、プリン体を問題視することもあったが、鮭・青魚・魚卵にはDHAやEPAが豊富に含まれていることが知られるようになった。
- ・ 天然の鮭を推奨するようなシステムづくりを行いながら、国の検疫体制の強化もお願いし、日本の天然魚である秋鮭を国内で更に消費してもらえよう、会場の皆様には、努力と協力をお願いしたい。

### III 来賓挨拶 東都水産株式会社 代表取締役社長 関本 吉成 様

- ・ 北海道さけ・ます増殖事業協会が本年、50周年を迎えると共に、同協会が加入し「全国さけ・ます増殖振興会」が誕生したことは心強い限り。
- ・ 東京オリンピック・パラリンピックは、国内だけではなく、海外に向けても需要を伸ばすチャンスとなると思われる。
- ・ 私ども卸は消費者サイドの生きた情報を発信し、出荷者の皆様の一助となるように、今後とも取り組んで行く。

### IV 来賓紹介

### V 講 演

#### 1 演 題 「今年の秋サケ来遊見通しについて」

講演者 地方独立行政法人北海道立総合研究機構水産研究本部

さけます・内水面水産試験場 研究主幹 藤原 真 様

#### 2 演 題 「秋鮭を取り巻く流通環境について」

講演者 北海道漁業協同組合連合会 販売第二部 部長代理 倉地 宏樹 様

### VI 全体討議

#### 1 数の子・タラコ部門 (進行: ㈱加藤水産 加藤社長 (副会長))

- 抱卵ニシンは中国加工が増えているが、加工コストが上昇している。中国に送らず、道内の加工業者で一元管理出来れば面白いものが出来るとの思いもある。  
道東、道南の業者を含め、扱いにチャレンジしてみたい。
- 「健康」と「数の子」が結びつき、消費喚起に繋がることを期待している。
- アニサキスの問題もあり、加工業者の方にはしっかり除去をお願いする。
- マルハニチロからタラコの需給について報告。

#### 2 サケ・イクラ部門 (座長: ㈱マルキチ 根田社長 (副会長))

##### ① サケの部

- アニサキスの問題については、末端の店頭での注意喚起や、処理の仕方を発信していくしかない。荷受としてもそうした働きかけをしていく。
- 最近、洋風のアレンジが喜ばれるので、レシピの情報を集め、今後の販売につなげたい。  
漁期後の製品加工ができれば、生産性も上がりコストも安くなる。
- 豊洲の開場記念に生産者等と一体となって、秋さけを販売する事を提案。

##### ② イクラの部

- ベニのイクラについては、大手回転寿司が使うなど徐々に売れてきている。
- 量販店からは、より安い物が求められており、価格訴求の魚卵を提案し、トライすることを繰り返している。

### VII 閉 会